

## 第3回 災害の自分事化協議会

### 参考資料 目次

- 1. 災害の自分事化協議会 規約 …… 01
- 2. 第2回 災害の自分事化協議会 議事要旨 …… 04
  - 議事1 プロジェクトのターゲットとゴール …… 04
  - 議事2 良質な情報を登録、認定するしくみ …… 11

## 災害の自分事化協議会 規約

### (名称)

第1条 本会は、「災害の自分事化協議会」（以下「協議会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 協議会は、災害を自分事化し人々の防災行動を変えるために、全国各地に残る災害伝承に係る情報のうち、心を揺さぶり行動に誘う良質な情報（コンテンツ）を発掘・育成するとともに、その情報を伝える仕組みを全国で展開・普及する活動を通じて、災害による犠牲者を一人でも減らし、災害後も持続的な地域社会の構築を目的とする。

### (協議会の役割)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる提言、支援、諸手続き等を行う。

- 1) 人の意識に働きかけ心を揺さぶる良質な情報（コンテンツ）の発掘、育成に関する事項
- 2) 良質な情報（コンテンツ）の登録、認定に関する事項
- 3) 良質な情報（コンテンツ）の伝達に関する事項
- 4) その他前条の目的を達成するために必要な事項

### (取り組みの対象とする災害)

第4条 自然災害のうち、洪水、土砂災害、高潮等の水災害を主な取り組み対象とする。

### (組織)

第5条 協議会は、会長、会長代理及び別表に掲げる委員をもってこれを組織する。

2 会長は、互選とする。また、会長代理は、会長の推薦とする。

3 会長は、会議運営に関して必要と認めるときは、委員以外の者に対して、協議会に参加し、その意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

4 会長は、協議会の活動を円滑かつ効果的に実施するため、協議会の合意を得て委員を追加することができる。

5 会長は、協議会の活動に対して外部有識者から提言を求めため、協議会の合意を得て検討会を設置することができる。

(会長及び会長代理)

第6条 会長は、会務を総理し、協議会の会議の議長となり、協議会を代表する。

2 会長代理は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは会長の職務を代理する。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、一般財団法人 国土技術研究センター 河川政策グループに置く。

(雑則)

第8条 協議会による諸々の意思決定は電子メールによる照会により行うこともできることとする。

2 本規約の変更は、委員の合議により行う。

3 この規約に定めるもののほか、協議会の運営等に関し必要な事項は、会長が別に決定する。

附則

(施行期日)

この規約は、令和5年9月4日から施行する。

附則 (令和5年12月21日改正)

(施行期日)

この改正は、令和5年12月21日から施行する。

(別表)

災害の自分事化協議会

委員

- (会長) 今村 文彦 東北大学 災害科学国際研究所 津波工学教授
- 大知 久一 一般社団法人 日本損害保険協会 専務理事
- 岡村 啓太郎 全国地方新聞社連合会 会長 (高知新聞社 東京支社長)
- 笹原 克夫 高知大学 教育研究部 自然科学系理工学部門 教授
- (会長代理) 佐藤 翔輔 東北大学 災害科学国際研究所 准教授
- 所澤 新一郎 一般社団法人 共同通信社 気象・災害取材チーム長
- 徳山 日出男 一般財団法人 国土技術研究センター 理事長
- 針原 陽子 読売新聞東京本社 防災情報サイト  
「防災ニッポン」「防災ニッポン+ (プラス)」編集長
- 廣瀬 昌由 国土交通省 水管理・国土保全局長

(敬称略、五十音順)

スペシャルアドバイザー

- 磯田 道史 国際日本文化研究センター 教授

(敬称略)

## 第2回 災害の自分事化協議会 議事要旨

日時：2023年10月24日（火） 自 15時30分 至 17時30分

場所：一般財団法人 国土技術研究センター 7階会議室

### 議事1.プロジェクトのターゲットとゴール

・ゴールの設定には、防災意識が一般的な人についても、「避難行動をとる」はあった方がよいと思う。災害の自分事化の象徴としては、リスクを認識して行動につなげるということがポイントだと思うので、防災意識が一般的な人も自身が避難することをターゲットにすることが必要だと考える。防災意識の高い人は、率先避難、避難誘導がゴールとなっており、地域の防災のリーダーというイメージが出ていて分かり易い。また、登録・認定制度というようにレベル化を提案いただいているのは意味が大きい。4つの評価項目の中身については、全く問題はないが、2番、3番、4番の場合分けが難しい印象を受けた。一方、情報のレベルを上げて、基礎的な情報の充実が図られるという観点も必要ではないか。そこにいけば、必要最低限の情報はあるが、さらに、地域の災害全体の情報が見られるように情報のレベルを上げることも必要だと考えており、項目1を充実させることも評価することにすれば、情報を収集・整理する方のインセンティブにもなるのではないか。そのため、基礎情報をしっかり集める、充実を図るために認定・登録のところにもレベル感を出すことも考えられる。評価項目として表現に差をつけることは難しいと思うが。

・前回、ゴール設定を明確にしたほうが議論は拡散しなくて良いのではないかと発言したが、この枠組み自体に問題はなく、議論を進めるためのフレームワークができれば良いと思う。災害時の避難行動は本当の意味で防災の最終ゴールなので、このプロジェクトにとっての最終ゴールと位置付けておいたほうが良いと思う。また、自分事化して準備をすることもゴールとして考えられる。プロジェクト効果の評価指標は、準備行動しか定量化できず、実際に災害が起こって率先避難・避難誘導の有無は、長期間の統計を取らないと分からないので、それをゴールしてしまうと難しくなるという印象を持っている。むしろ、災害を自分事化して、ちゃんと準備をしてもらうために必要で有益な情報を登録・認定していくと整理したほうが分かり易いと思う。

・釜石の伝承施設を訪れた時の語り部の方は、中学生の時に災害に遭って、小学生を連れて高台に逃げた経験をお持ちで、お話しを聞くことは心揺さぶる体験であった。その方は当時、特に何も考えずに、普通に、条件反射的に小学生の手を引いて高台に行ったということで、動揺している大人とは逆に、子供はしっかりされていたということで、自分事化が自然にできているということだと感じた。防災教育のいい事例を分析し、体系立って整理して発信できれば、自分事化につながると思う。自分の小学生時代に接した「飛び出さな、車は急に止まれない」というスローガンのようなものができれば良いと思う。正に、文化・風土の話。

・意識しないでも行動とか対応できるような、生活に密着したようなものが、最終ゴールになるだろうということ。

・ゴールがターゲットごとに設定されるとなると非常にやりづらくなってしまふとい印象を持った。防災についてやらなければならないことがたくさんあるので、それについてこの協議会で細部まで詰めてしまうのは不可能であり、社会が変化する中でいろいろな在り様があるので、「ゴールには可能な限り指標を設定する」というのは多分難しいと思う。今回、イメージとしてご提案いただいた側面は、ある個人を対象にして、平時、災害時、かつ避難というところに特化して行われているが、災害時にやらなければならない事は、避難だけではなく、避難生活、生活再建も含まれるため、ここでは無限の情報が整理されない限りは理想の絵というのは描けないと思う。それについて最低限のものをつくるというのであれば、それはそれで可能とは思いますが、いろいろなステークホルダーがいる中で、それを細かく設定するのは、限られたメンバーとか、限られた時点では難しいと思う。そのような意味で、フレームワークとして採用するというのは賛成である。プロジェクトのゴールという言い方をすると到達点になるが、プロジェクトのミッションと言うか、理念的なところに留めた上で、あえて抽象化したものに向って頑張っていくと皆さんの気持ちが向いていくのではないかと思う。一つ目の意見は、ここまで細分化したものを作らないほうが良い。というのは、作れないという意味。もう一つは、作るとすれば何がいいかというと、ゴールではなくて、ミッションレベルの抽象的なもののほうが今回のプロジェクトには適していると思う。評価指標については、ここもまだ頭が整理できていない部分があるが、基本的には、事前に備えていることしか、指標としての項目をつくることのできな

いと思う。その時、二つ大事なことは、今回、自分事化なので変化量を取るということが大事だと思う。やらなかった人がやれるようになったというものを評価指標として取るべきだと。もちろん範囲の差分ではあるが、変化量のほうがもっと大事であり、思い切って災害が起きた後にそのような指標を取りにいくということも積極的にやってもいいのかなと思う。

・大きなフレームを、ゴールと言うか目標にして、それに対する指標も、絶対値というよりも、差分を取れば、日常の中できちんと把握しながら、何かあったとき、または定例的に行えば、効果的ということ。

・水害には3つの特徴があると思う。一つ目は、まさかここまでという、地域の方々の思い込み。その方の一生では初めての出来事だったかもしれないが、歴史を振り返ってみると、その地域では過去に洪水が来たことがあるが、地域で語り継がれてないといったことはよく聞くこと。二つ目は、保険に入っていなかったとか、50センチの浸水であっても、あるいは全壊するようなものであっても、水害をもたらすことの財産的な被害は深刻だ。水に1回浸かってしまうと家財が全く使えなくなり、水が引いた後の再建に苦労している。かびが生える、災害ごみがたくさん出るような、水害特有の苦しみも見てきた。三つ目は、車。地方にとってはなくてはならない生活の手段である車は一家に何台もあり、水没してしまうと、移動すらままならない、市役所に罹災証明を届けに行くこともできない、物資をもらいにいくこともできない等の状況を多く見てきた。保険、車は、我が事につながる部分があると思う。一度痛い目に遭った方は、これらに対して工夫している。繰り返して洪水が発生するところでは、警報が出てきたら車を高台に上げている人もいる。自分事化のプロジェクトが意味するものとして、より密接な生活の部分が何かリンクできないものかと思う。ターゲットを防災意識の高い人、一般的な人で分けているが、防災意識の高い人の方が、このプロジェクトから得ていただくものが多分、水が染み渡っていくスポンジのように取っていただけののではないかと思う。一般的な人はやはり時間がかかるので、それを先ほどから御意見が出ているような形で強調したほうがいいのか、しないほうがいいのかというのは、自分にとって、まだ結論が出ていない。自分事化へのプロセスみたいなのがあって、このプロジェクトが目指しているもののところが大切な、なくてはならない人を守るということとしても、水害で痛い目に遭って、1回被災した方であれば、車を移動

させることは必然的に自分の身を守ることにもつながるし、家財をできるだけ2階に上げるとか、家財、財産、車と言うところから何かアプローチできないかなと思う。命も重要ですが、財産というのはより身近に感じてもらえるのでは。

・今のご発言にとっても共感する。特に、痛い目に遭った人がやるようになった行動というのは、評価指標として非常に興味深い。この評価指標の中に、そういった被災経験を持った人の事後にあった変化みたいなものをよりどころにして指標を整理していくと、この人は被災することを先取りして自分事化して、被災してないが、やっているということの裏返しになると思うので、とても面白い御発言だと思う。

・世論調査項目は準備に係るものであるが、一度被災した人の部分と、両輪から成ると、このプロジェクトの幹がより太くなると思う。

・ゴール、ターゲットについては、前回お示して、皆様からご意見を頂きましたし、マーケティング視点で考えるという別の切り口においてもきちっと設定されていたので、一生懸命考えて、これを本格的にやれと言われたらどうしようかと思っていたが、皆様から「やはり、難しい」ということをたくさん言っていただいて、ちょっとホッとしている。いいことしているつもりでも独りよがりなプロジェクトや講習会に来られた人の数で満足しているというのはありがちであり、ゴール、ターゲットはとても大事なことだと思うので、難しいとはいえ、忘れずにやっていくというのが大事と思う。理念もしくはフレームワークというご発言があったが、そういう意味でゴールはきちっと置かせていただいて、ターゲットをどういう置き方するか。また、指標というのは、本当にものすごく難しいと思う。内閣府の全国調査で反映されるほどの効果が上がれば、本当に望むところであるが、差がすぐ分かるということにもなかなかならないのだろうなと思いつつも、別の手法を考えると、いろんな意味で最後までここは大事にはしていきたいと思う。

・ゴールのイメージ、これをやれたらゴールという明確なものを示すのはなかなか難しいと受け止めた。タイムラインの作成について取材をしていて、ネット上や、スマホのアプリなどでタイムラインを作れるものはよくあるが、それを使って自分でタイムラインを作ろうとしても、簡単なものしか作れないということがあると思う。資材の備蓄についても、

年齢や住んでいる場所、家族構成などによっても必要な物資は異なる。何を備えるべきかは、人によってまちまちなので、はっきりこれがゴールですというふうに決めることは難しいと感じる。ターゲットについては、防災意識の高い人と一般的な人という分け方はいいと思うが、児童・生徒はどちらに分類されるのか等、いろいろ細かいところで受け止める側が誤解をしないような表現の仕方をする必要がある。効果測定についてだが、内閣府の意識調査の推移等を記事にする時に感じるのは、東日本大震災とか、大きな災害があった後は上がるということ。東日本大震災の後は「備蓄している」と回答する人の割合が上がり、その後しばらくするとだんだん下がってくる。このプロジェクトの効果なのか、他の要因の効果なのかというところを計るのは、内閣府の全国的な調査などでは難しいと思う。指標が必要、効果を測定することが必要ということであれば、限られた対象者に対して、やる前と後とでどのように変わったかというアンケートを取るしかないのではないかな。

・全体フレームなので、細かく入り過ぎるのはどうかと思うが、自分事化というのを何で捉えるのかは大事。避難をどうするかだけでなく、建物をどこに建ててどういうふうに居住するかも自分事化の一つ。イメージとして捉えたときに、自分で避難するということをゴールに置いていただくというのは自分事として分かりやすい発信になるのではないかなという考えで、先程は発言したが、自分事の象徴として、「避難」という意味からすれば、避難行動そのものではなくて、難を逃れて、命が守れること。自分事化すべきなのは、避難行動を取るのではなく、命が守れることであると思うので、命を守ることを、自ら行うということが、自分事化の一つとするのは分かりやすい発信になると思う。

・資料には具体的なものは入っているが、もうすこし抽象的なもののほうがゴールとしてはいいのではないかなと思う。例えば、先ほど、命を守る、財産を守る等々が出たが、何かを守るということが、実は防災上でもとても大切だと思っている。当たり前の日常生活は非常に重要であるが、突然の災害に対して失われるので、そうならないように何を守るのか。「何を」というのは、もしかしたらゴールがそれぞれあるかもしれない。ターゲットは、いろいろな自分事化を、また、防災をやっていただく、担い手、或いは企画者と言うか、例えば学校ですと先生とか、そういう方たちをまず第一層のターゲットとして、そのメンバーが最終的には国民になると思うが、そういう人たちの意識を上げる、自分事化の対応を上げるということなので、最初のターゲットはリーダー格になる方たちに対してより

よい、質の高い情報を提供する、または情報を出していただく。そのネットワークが、今回のプロジェクトのゴールになるのではないかと思います。

・良質な情報とか取り組みを情報提供いただく方がターゲットと思う。それぞれの活動は当然やっているが、その方たちに、違う情報とか、いろんな知恵とかを提供することによって、いろいろな気づきとか、取り組みが広がると思う。そのような仕組みが今回のプロジェクトでポイントになると思う。

・ゴール側の話として、災害対応の大きな目的は、命を守ること、財産を守ることと、もう一つは、早く回復することがあると思う。被災を軽減するということの他に、実は畳からフローリングに替わることは家の復旧を早めることになる。評価指標については、プロジェクトの評価指標として位置付けるというよりも、自分事化した事を評価指標みたいな感じで捉え、「プロジェクトの」というのを取っても良いと思う。また、先程の「良質な情報を見る人がターゲットであり、そこへの広がり的大事」とのご発言を踏まえると、良質な情報の提供を受けた人がどう波及していったか、増えていったというところは、逆にプロジェクトの評価指標になり得るのではないかと。そういうことをやり始める人、そういう知識転用のケースの数のような、定量的ではなく定性的な評価指標の方が相性がよいのではないかと思います。

・良質な情報を登録・認定する仕組みを考える上でのフレームワークとして、良質な情報に触れた人に何をしてほしいかという防災のゴールは、もちろん命を守る、財産を守るところに行き着くが、このプロジェクトに特化した形のゴール又は到達点で良く、可能な限りの準備をしておくことを到達点として評価して良いと思う。到達点の評価の定量的な効果測定は確かに難しい。地震保険の付帯率は災害があったとたんに急に上がる。また、地域性、県民性等もあり、阪神・淡路のときには京阪神チームは急に上がったが、数年経つと急に下がり、結局、元の木阿弥。ただ、東日本大震災の時は宮城県、今でも宮城県は都道府県別で付帯率トップで、これはずっと続いている。これは身にしみている感じが分かるが、その辺りのバイアスをどうやって取って評価するかというのは非常に難しい。外部効果が非常に大きいことから、あまり細かく詰めるのは良くなく、むしろ、もう少しアバウトに捉え、通常の場合には、このようなインセンティブに

なるところを積極的に評価していけば良いと思う。良質な情報を効果のある順に1、2、3、4とランキングすることに目標があるのではなく、「一定のバーをクリアしたものは良いもの」というふうに皆さんに喧伝するということに目標があるのであれば、少しアウトな形で登録・認定する。ただ、外してはいけないポイント、こういう情報は出てないと駄目ですよ、という形で明示化する。世の中的には良いのかもしれないが、自分事化プロジェクトの中ではそれが欠けていると評価の対象にはなりません、というのを明示することに意味があると思う。今回のプロジェクトの特性に適したゴールとターゲットと評価というのがあれば、そのほうがシンプルになって見え易いと思う。

・子供たちというところは一つの大きなターゲットにしたいと思う。地方紙連合会、読売さんも含めて、いろいろと子供向けの媒体を作っているのだから、それらをうまく活用していただきながら、子供がしっかりすれば、親もそれについてくるということもあるのだから、できるだけ楽しく簡単なものもうまく指標にできれば分かり易いし、簡単なものほど伝わる。先程の中学生に学校の取り組みを聞いたら、津波と同じスピードの車と駆けっこをしてみるとか、車が30キロで走って、子供と一緒に走って津波の速さを体験してみるとか、避難訓練で授業がなくて楽しかったみたいな、そういったところが意外と刷り込まれていくのかなということもあると思うので、難しく考えず、子供たちの目線で、非常に楽しめるという要素も一つの指標として重要ではないかと考える。

## 議事2.良質な情報を登録、認定する仕組み

・登録と認定、それぞれによる具体的な効果がより見えるようになれば良いと思うが、認定は登録されたものの中から優れたものであって、他の人たちにより推奨され、表彰に値するようなものになると思う。認定されることにより、地域の活動の更なる盛り上がりにも繋がると思われる。流域治水協議会の中では地域の方々の巻き込み方が難しく、協議会の中心を担っている行政が中心となって取り組むハード対策と地域で取り組むソフト対策とがうまくブレンドされることによって、実体的な効果があがり、水害への対応力が向上するのは非常に良いと思う。評価項目3、4はそれぞれ伝えていくことの工夫が非常に多く、評価することが難しい反面、ここに、工夫の余地や知恵が眠っていると考えている。逆に認定のプロセスにおいては、優れている点を評価して見える化することによって、知恵が広く共有され、さらに知恵が蓄積されていけば良いと思う。

・認定のプロセスの中で活動のいいところをきちんとクリアにして、それを他の方にも共有していただくことは、行政側にとっても、かなりメリットがあるということ。

・登録と認定と2段階あり、選定委員会で特に優れたものを選ぶ際の基準はあるが、どうやって選ぶのか、認定を受けると何か具体的なメリット、認定に向けたモチベーションが必要と思う。表彰されるイベントみたいなものがあるとしても、そこは何か考えないと、登録だけじゃなくて、認定にステップアップしようみたいな、そういうところは自然には湧かないのではないかと思う。また、登録有効期間とか、取り消す仕組みを作る意図は、増え過ぎるとぼやけてしまうからとか、その団体が不祥事などを起こしたときに取り消すのが難しいとか、いろいろな理由があると思う。評価項目について、2番と4番の行動に結びつくものというのは、3番も同じだと思うが、それぞれどのように違うのかなど、分けるのは難しいと思う。

・災害関係のウェブサイトはたくさんあるが、いろいろな要素が整ったものは意外に少ないと思う。4つの評価項目については、項目1のある程度の情報を持つものというのが殆どだと思う。いつどんなことが起きたかという事実関係がある程度書かれたものが殆どで、夏休みの宿題の参考にはなっても、自分事化にはなかなかならない。項目2は、もう少し心を打つ、心が動く、動機づけになるような、例えば、写真とか動画があるとか、その頃の

経験者とかの思いとかを書かれているとか、歴史上の事実というよりも、もっと大変なことだと、これは大変だなと思うようなものがあるものが該当する。項目3の「人の意識に働きかける」という言い方は、例えば、おなかが痛いというので検索すると、どうしたらいいかが書いてあるサイトが結構あり、この症状だと、どういう病気で、何科に行きなさいと書いてあるが、名古屋に住む人が、台風が近づいてきた時にどうすれば良いのかということと検索すると、過去の死傷者数は書いてあるが、ハザードマップを見なさいとか、家族で話し合いをしていますかとか、守るためにすべきことのヒントになることが書かれているサイトは意外に少ないと思うので、そのような内容が項目3に欲しい。項目4は、更にプラスアルファというもので、さらに勉強しようと思ったら、例えば、同じ流域とか、同じ災害関係の語り部さんのツアーを実はやっているとか、こういうのに参加しませんかとかいう発展型があるぐらいの感じなのかなって思っている。そういう意味で、たくさんある内で、心を動かされて、やるべきことのヒントがもらえるというのは意外に少ないと思うので、現時点で認定に該当するのは、少ない気がする。この地域の方はここを御覧になったらどうですか、という程度のものがまず登録される。更に良くなって欲しいので、取消しと言うより、有効期限ぐらいにしておくのが良いのではないか。登録件数については、県の中に10個或いは50個という相場感を事務局として考えているが、皆さんの感じを聞かせていただければありがたい。

・資料を見て、だいぶイメージがつかめてきた。このプロジェクトの自分事は、その地域の自分事だと思う。地域というローカルな、地形とか、いろんな制約がある中で受ける災害のときに、地域ということがどうしても関わってくるが、その地域の自分事であり、プロジェクトが成長していき、グッドプラクティスがもたらす波及効果、例えば、防災とお祭りというのは非常に親和性があるが、これなら俺たちももっとできるという、底上げというか、そういう波及効果、全体の防災の力というか、そのような所にも寄与する可能性があると思う。登録、認定を誇りに感じて、例えば公民館にその表彰状を飾るような姿も思い浮かぶわけで、そのような場合は自分事と言うより、地域事というか地域みたいなキーワードが出てくると、逆にその地域が取り組みやすくなり、このプロジェクトに対するハードルが下がるように思う。登録・認定の基準・プロセスについて、流域治水協議会さんの推薦、事務局さんの抽出というのも異論はない。もう一つは、いわゆる自薦という選択肢を検討いただければと思う。このようなプロジェクトが浸透していったときに、これ

は自分たちも当てはまるのではないかという、そういう地域の力を引き出せるようなメリットはあるのではないかと考えている。審査は厳正にしていればとは思いますが、自薦で、俺たちもこれは当てはまるよというような部分が可能性としてないのか、ちょっと検討していただければと思う。取消しについては、例えば、日本ジオパークの場合は基本的には増えていく形であるが、数年に一度、厳正な審査があつて、基準を満たしてないとなったら、取消しになるので、その間も頑張り続けなければならないということで地域は一生懸命になっており、一度選ばれて頑張っているところはその枠にずっといていただきたいと思う。有効期限が終わったらある日突然サイトから消えてしまうよりは、ずっといいことで頑張っていらっしゃるところはそのサイトで光り輝いてほしいと思うが、有効期限という考え方は妥当なのかもしれない。こういったいろんなイメージ図を見せていただくと、かなり可能性があると思っている。自分事であり、地域事として、その地域の力を引き出し、この地域のこれなら、俺たちは既にやっているとか、そのような波及効果も呼び起こせるのではないかと思う。

・登録・認定という枠組みは、全然否定はしないが、対外的に見たときには、言葉が混同してしまう可能性があると思う。登録することと認定されることって、厳密には違いがあると思うが、何かにはリストされている、何かにはめられているという意味ではほぼ同じような意味だと、私は理解した。3.11伝承ロードは、登録ではなく認定であるが、ここで言うところの登録の意味を持っている。私のアイデアとしては、認定という名の登録一本化で良いのではないかと。ここにある登録が認定となる。つまり、伝承ロードと同じような形になって、もし何か付加価値をつけたいのであれば、オブ・ザ・イヤーみたいな感じで、アワードとしての位置付けのほうがシンプルかと思うので、認定と賞みたいなペアを設定するというのも一つのアイデア。ジオパークの有効期間は、落とすためのものじゃなくて、アドバイスを頂けるもので、あまり強い認定という意味ではなく、経過観察とアドバイスみたいな位置付けをこの何年間というサイクルに持たせることが有効だということで、それが、落としていかないとか、拾っていくという行為につながっていく。ちなみに、ジオパークは4年間。3年だと短過ぎて、5年だと長過ぎるからというふうに聞いているので、そのような慣習は踏襲してもいいと思う。評価項目については、基本的な情報を含みつつ、「良質な知」や「教訓」が存在しているということで、項目1と3は、情報系としてまとめてもいいのかなとも思う。また、持続可能性に関する項目はあつたほうがいいと思う

ので、人が関わっているとか、アクティビティ性とか。先程、ウェブサイトはいっぱいあるが、その中に魂が籠もったものは少ないとのご発言があったが、そこは、人が関わっているか、関わってないかだと思う。そこに活動行為がある・ないというのは結構大きなファクターを持っていると思う。つくっただけのサイトか、使われているサイトかという意味では、人が関わっている行為があるということが評価項目としてあると。それは、最近の言葉で言うと、持続可能性があるというふうな上位概念にすると、いろいろなものがそこに入ってきて、楽しいみたいなことも入ってくる。実は、私が出していただいているお祭りは、始めたきっかけは別に災害伝承ではなく、人材育成のためにやり始めている。地域の担い手をつくるために始めたのが最初の動機なので、そういったところも実は、持続可能性、継続するための工夫として入っているので、追加の5項目になるのか、何か合体しての追加なのか分からないが、持続可能性、人の関わりみたいなものもあったほうがいいのではないかと思います。認定の選定は中立性のある委員で構成というのがあるが、このままいくと私は選定委員になれないことになる。別になりたいということではなく、関わっている為。何でこういうことを申し上げたかという、総務省さんの防災まちづくり大賞は、こういった中立性云々みたいな規則はない。関わっている人が限られているというのもあり、そこで排除すると捨てることも審査することもなかなか難しく、まちづくりよりもさらに狭いことになるので、ちょっと弊害が生まれる可能性もある。広い目で見ると、多分、私以外の委員も何かしらに関わっている可能性があると思う。

・案件に関わっている場合は、その案件を審議する際には外れるというのはある。

・今回の協議会の目的は、登録というのはプロセスであって、最終的には自分事化してどうつなげるかという、行動変容等、非常に難しい課題ではあるが、それにチャレンジするというものだと認識している。登録では、団体の認定とかは流域治水協議会等から数多く出てくるものの内、基準を満たさなくても不受理にせず、アドバイスする対象としてグルーピングするのも良いと思う。中身重視で、地域バランスについては特に考えなくてもいいと思うが、できれば全国であったほうがいいとは思う。私たちは共同通信さんと一緒に、20回位、地域再生大賞というものを内閣府の地方創生より早くやっているが、これはコンテスト形式で、通常の取材の中では発見できないような細かいネタを拾ってきて、地方でうまく活性化している事例を挙げて、大賞を決めてやっている。全ての方に、賞というか、

そういうがあるので、受賞者からは、人から褒められると非常に励みになるという言葉  
を聞く。そのような仕組みもうまく使って、せっかく読売さんも委員になっていらっしや  
るので、その辺の、流域治水協議会とか、そういうなかなか拾えないネタなんかもうまく  
拾うような座組もつくってみたら面白いのではないかと思った。

・評価をいただいたり、新聞記事で取り上げていただいたりすると、モチベーションは上  
がる。

・登録・認定の評価項目は、総括的に4項目に区切っているが、皆がこれで同じことを向  
いているかどうかというのは担保しづらいという感じがする。やるとしたら、これをかみ  
砕いて具体的な形のチェックリストみたいなものに落とし込んでいかないと、なかなか評  
価の項目にはならないのではないか。その中に、その他というのがあっていいと思う。チ  
ェックリストを作るときに思いつかなかったけれども、こういうのがあるじゃないかとい  
うのは特別に評価してあげればいい。その中で、項目1というのは割と、ある・なしで決ま  
るが、2、3、4は、結構難しく、やや重複感のあるようなものも出てくると思う。重複し  
ても別に構わず、チェックリスト上、ある程度あって、4区分にすることが目的ではないので、  
具体的に何をチェックしなければならないのか。そのチェックリストと言っても、チェッ  
クは全部ではなく、この区分で何項目かあればオーケーだという形の作り方もあると思  
うので、それで少し細分化してみると議論が具体的になるのではないかと思う。多分、こ  
がこのプロジェクトの肝になるような気がする。そうすると、例えば、これにノミネート  
しようかなあと思う団体も、チェックリストを見れば、これはいいけど、これはちょっと  
どうか、という形で見えるし、仮に今の登録から認定に進むという2段階方式にしたとき  
にも、登録したけども、どうもこの項目をやらないと認定してくれないというイメージが湧  
くので、磨いていく方向性が見える。それがそれこそ行動につながっていく。ノミネート  
する方々、運営している方々への行動につながっていく。それがやがてはそこに属してい  
るメンバーへの行動になっていけばいいと思っているので、大変無責任に言い放っている  
ようですが、これは細分化しないとなかなか前に進まないかなあという感じがする。要件  
のところでは、私も最初に読んだときに、登録と認定の違いにまごついた。用語のイメ  
ージとして、登録ってゴールっぽい名称なので、2段階に進むのであれば、例えば、ノミネ  
ートと本認定とか、そういう段差がついたことが言葉自体としてイメージできるような形に

したほうが、多くの方の誤認を避けるという意味で良いと思う。そうすることの意図というのは、私なりに解釈したのは、認定まで至らないけれども、ちょっとノミネートしてみようかと。ここで、このチェックリストをチェックして、自分たちの活動を少しこういうふうに手直ししてみようというインセンティブにつながる、ガイドラインというか、指示塔みたいな位置づけになるかもしれないということを意図したのであるとすると、2段階制も良いと思います。2段階制にするとしたら、例えば、現在の登録という名称の有効期間を入れるのはありだと思う。ノミネートしたけれども、そこまでメンバーの熱意が至らずに努力が行かなかった人をずっと残しておく管理上の負担にもなるので、落とすのは、それほど違和感はないと思う。また、本認定を取った場合に、それを3年から5年で落とすかというのは、なかなかハードルが高い。どういうときに落ちるかということを定義しないと、もめごとを起こしそうな気がする。そこをやるのであれば、そこまでロードを描けるかどうかの問題ではあるが、再認定については、ひよっとしたらチェックリストも時の要請によって少しずつ変わってくるかもしれないので、こういうことを続けていっていただけませんかというようなアドバイスをする形式上の再認定みたいなものができるのであれば、それはそれで意味があるかもしれない。認定したらそれで良いのかということではないと思うので、磨いていただくためのインセンティブとしてやっていったほうが良いと思う。最後に、認定という事実だけでどのぐらい人が動いてくれることを考えないといけないと思う。今はどちらかというと、地域の中で活動していらっしゃる方々は、比較的、年代も高い人が多いような気がするので、認定だけでもありがたく思っていていただけるかもしれないが、だんだん世代が変わってくると、それだけで動くかどうか分からない。何かしらのインセンティブがないと、次の世代、次の世代って、ちゃんと受け継いでくれるかやや疑問。何かインセンティブがついているのであれば、認定有効期間というのを定めるという意味の説明にもなるので、総合的に考えていく必要があると思う。

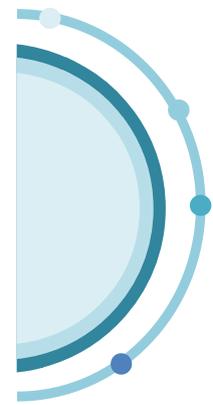
・インセンティブについては、認定していただいて、評価を受けて、もう一つ欲しい。例えば、活動費とか、参加率と言うか参加の方がより増える効果があるものとか。参加費に関しては、一定額の予算というより、クラウドファンディング的に、こういう活動に関して、皆さん、広くどうでしょうか、御支援いただけませんかということで、賛成が多ければ活動費が集まるわけで、それで活動の幅が広がると思う。クラウドファンディングがそのままここに当てはまるかどうかの検討が必要だが、内容によって御支援を広くいただく

ようなシステムというのはあると思う。我々の研究室の学生さんも、アドバルーンを津波避難ビルに上げようという案を出して、最初の活動費はクラウドファンディングで実験をやり、今は、仙台市の他、いろいろなところから御支援をいただいているようなので、この視点も重要なものと思う。

・4つの評価項目の全部埋まっていることが必要ではなくて、加点することで評価するというに強く賛同する。全部埋まってなきゃ再認定されないのは、ハードルを上げてしまうことになるので、良いところをどんどん見ていこうという方法が良いと思う。その際のチェックリストについて言及がありましたが、今の段階で作るのはちょっと危険で、審査の過程の中でそういったものを組み上げていかないと難しいと思う。最初のスロットはこれぐらい上位概念のもので良くて、だんだんブレークダウンしていくことでやっていくほうが最初はやり易いと思う。加点については賛成。インセンティブについては、認定される人にそこまでインセンティブはなくてもよいのではないかなと思う。というのも、地域で自分事化するというご発言があったが、目的の大きなところは、ここで認定されたものは参考となる情報ですよという発信だと、思っている。こういうことをすると地域で自分事化できますよという情報の発信が目的だと私は思っているので、もちろん認定された方に何かしらのインセンティブがあることは良いと思うが、大事なことは、これが、横に、世間に波及していくことだと思うので、むしろ認定されてからの情報発信について協議会として何か取り組むべきではないかと思う。なお、総務省の防災まちづくり大賞は、大賞を取った30位の団体の情報を冊子にまとめて配布している。配布してから何年後かに、その大賞を参考にして応募してみましたという人が結構来ているので、その波及活動を協議会の中で頑張るといふことも、重きを置いた方が良いと思う。

・インセンティブの話は大きいと思う。認定もそれなりの価値はあると思うが、機会の話とも絡むような気がする。今回考えているのは、良質な情報と、それに触れるタイミングを上手につくることなので、例えば、認定されれば学校教育で取り上げられやすくなるとか、そことタイアップしやすくなるとか、或いは、不動産の契約時にここを見ておいたほうがいいですよ、というのが入ると思う。登録、認定の手続論という点では、「道の駅」の経験を踏まえて考えたい。「道の駅」を30年前に考え、いろいろと認定したが、どんどん良いものが出てきて、今や知らない人はないぐらいになり、全国で1,200箇所を超えている。

すばらしいものから、単にトイレと何かがあるだけというものまでであるが、地元の方々の関連もあり、落とすというのはかなり難しい。どんどん良くなっていく中で、良いものを残していくというのは難しい手続きだと思う。評価項目をかみ砕くのは大賛成だが、項目1と3は一緒ではない。例えば、殆どの情報サイトは何人死んだしか書いてないが、書いてあるのにどうして駄目なのか？と言われた時に、教訓的な要素がないというのは極めて明確に差別化できると考える。この要件が満たされると「今までのものよりは違う」ことが説明できるような要件にしておかなければならないと思う。うまく回り出した時に、沢山入れて欲しいと言われた時の対応が難しいと思う。



2023  
1221